

## 第12回カツオ資源調査・保全分科会議事録

日 時：平成30年10月1日（月）12：30～14：20

場 所：(株)山崎技研浦ノ内養魚場

出席者：受田座長、山崎副座長、千頭副座長、市川（事務局）外 資料：参加者リスト

### 1. 開会

### 2. 議題

#### (1) 養殖現場の視察



#### (2) 日本遺産認定推進WGの進捗状況

- ・次回の文化庁への事前相談は10月11日。9月5日に開催した推進WGでの議論内容に基づき、「カツオのたたき」をメインのストーリーとして持っていく。

#### 【現状案】

タイトル：カツオの国 土佐 ～黒潮の恵と共生する文化～

太平洋に向かって開けた高知はカツオ消費量が群を抜いて日本一。県の魚はもちろんカツオ。県民のカツオ食文化へのこだわりを辿れば江戸期に開花した土佐の一本釣り漁業に行きつく。高知城下まで男達が鮮度保持のため走って届けたカツオロード。漁による繁栄を伝える漁師町の景観。本場ならではの豪快な藁焼きたたき作り体験。節を燻す白い煙が数百年前と変わらず立ち昇る加工場・・・黒潮の恵と共生してきたカツオの国土佐を五感で味わう。

- ・カツオロードとは、江戸時代に宇佐であがったカツオを荒倉峠を越えて夜中に走って届けられていた。また、弥生時代の遺跡からカツオの骨が出土されているらしい。こういったものがストーリーを構成する素材になりうる。
- ・カツオの生食は高知に限らず全国にあることから、高知の特色を出すためにはカツオのたたきという料理になるのではないか。高知県内ではそれぞれの地域でカツオのたたきでも作り方が少しずつ違う。意外と纏められた資料はないが、食文化分科会と連携して纏められないか。
- ・高知城歴史博物館で開催された文化講座「土佐の海・鰹」の第3回で講演されたRKC調理製菓専門学校の三谷校長の話の中で、たたきにまつわる面白い話があった。1845年までは塩辛のことをたたきと呼んでいた。これが1893年までの間に現在のたたきへと変わった。この間に何があったのか知られていない。明治維新前後の激動の時代に何があったのか。推測しか出来ないがこれも面白いストーリーになるのでは。
- ・11月11日に日本遺産シンポジウムを中土佐町で開催予定。計3回のシンポジウムを予定している。
- ・12月上旬に申請受付が開始される。

### (3) ペンシルカツオ (継続)

- ・平成30年9月21日の高知新聞記事の紹介。  
「極小カツオ輸入自粛を」 二平先生がリーダーを務める全国沿岸漁民連が9月20日に日本鰹節協会と全国削節工業協会に対し、極小カツオを加工した節製品の輸入自粛を求める要望書を提出した。  
要望書に関しては全文を高知カツオ県民会議のブログに掲載している。  
(<https://kochikatsuo.exblog.jp/27119244/>)
- ・竹内社長のもとに寄せられた情報として、フィリピンで極小カツオの水揚げの写真があった。引き続き調査のうえ、いずれ記事にしたい。
- ・アンケートの質問事項はほぼ出来た。近々、発送する予定。

### (4) 高知カツオ県民会議組織運営について

- ・次回幹事会において、分科会からの発議として議論する予定。
- ・日本遺産の推進団体として、県民会議が担うか、自治体が担うか。民間団体であれば、任意団体でなくNPO以上の組織である必要があるかもしれない。自治体が担う計画では審査において評価が低くなる恐れがある。運営組織としてDMOが一案として考えられる。自立自走の方策としては、森林環境税や入湯税のような地方税が一つの参考になるかもしれない。

### (5) 高知カツオ県民会議リーフレットについて

- ・2018 全日本印刷文化典高知大会が 10 月 5, 6 日に開催されることに合わせ、配布物として県民会議のリーフレットを配った。各分科会の内容も掲載。当分科会は座長、副座長の確認のもと、提出した。

(6) その他

- ・12 月の WCPFC の旅程を ANA に組んでいただいているところ。幹事会で参加者についても議論されるが、分科会でもアナウンスさせていただく。

3. 次回の分科会の日程について

日時：平成 30 年 11 月 5 日（月）12：30～14：00

場所：高知大学地域連携推進センター

4. 閉会